

生公連署名に
ご協力を！

昇任年次の格差を縮めよ！ 事務所係長・専門職4級など求め 4・22 総括該当者交渉を実施

国土交通労働組合東海建設支部は四月二日、昇格該当者交渉を実施し、年度はじめて職務多忙の中、都合をやりくりして五名が参加しました。この四月初、五級以上の退職者が六四名（事務系二名、技術系四二名）にもぼる一方、四級の発令可四名は事務所係長で二程度、専門職で七程度（数値はいずれも東海建設支部調べ）、七、処遇改善面での到達に相違わずの十分さが残る中、参加者は民主的な発令を当局に求めました。

■静岡（総務）山本さん
一昨年、連調の静岡へ異動。四八歳でまだ三級。浜松から遠距離通勤をしている安間さん（管理二）も、四級発令を求め



静岡 山本さん

■浜松（工務）大河原さん
四七歳で係長歴も十数年になるが未だ三級。静岡への遠距離通勤四年を経ながら、横滑りして浜松に戻った大村さん（河管）や、豊橋から横滑りして来た原田さん（総務）も四七歳三級、一歳下には荒木さん（開工）や竹本さん（河管）もいる。事務所係長四級の枠を広げてでも発



浜松 大河原さん

■名国（環境）高橋さん
専門官になって二年目で四六

令せよ。

女性技官の出張所係長への内勤昇任実現には感謝するが、後任が欠員。国道一号の四車線化等の事業を抱える中で大変な状況。河管では育休者等の後補充がない。多くの工事本数を抱える三遠南信を一人の監督官が担当。増員を求め。



浜松 清水さん

■中技（防災）深見さん
「処遇改善ホストの専門官で三級配置はその言に反する。人事評価制度では課長補佐クラスのはずだ。頭でっかしの年齢構成。相応の級別定数確保を求め。人事の結果を見るとき、中技の位置づけが低い。他の職場並みに昇任するのは、労務系の者だけだ。差別するな。



名国 高橋さん

■中技（防災）深見さん
誰かが五級・六級で退職できる展望をつくるのが課題だ。この四月初、退職二年前で専門職を十数年続けてきた宇野さんの希望職場に本局係長を登用したのは、本局偏重に他ならぬ。年度途中でも構わないので、速やかに希望職場での昇任実現を求め。



中技 川上さん

■本局（情通）岩田さん
四級昇格年次に格差をつくるな。この四月、丸山から木曾上へ異動した平井さんは、五〇歳を目前で三級に滞りされている。速やかに四級発令せよ。

務の扱い。負担感や不公平感を拭い去れない。どのように対応するつもりなのか。



本局 岩田さん

■庄内川（管理）山田さん
管理の内課さんに四級発令を、機械職だが土木の仕事をもインに頑張っている。



三重 田中さん

■三重（工務）中倉さん
前は、今年三五歳だが二級。自分分は三歳の年に昇格した覚えがある。早く三級昇格させよ。設備センターでできたが、対象は工事のみで、業務委託は相変わらず各課対応。これからもそうなのだから、また、センターのスペースを設けるため、狭小に。プレハブのため、断熱効果が薄く、夏は暑い冬は寒い劣悪な執務環境。早期の建て替えを求め。



三重 辻さん

前に比べて遅れている。改善せよ。紀勢に異動された白井さんは、退職二年前でやっと建設専門官になった。速やかに五級を発令せよ。



庄内川 山田さん

■三重（道管）田中さん
五三歳で監督官。未だ四級。先輩の例を見れば退職前には五級になれるのだが、五五歳からは昇給停止される。その前に五級への昇格発令を行うよう求め。



三重 上野さん

■三重（道管）辻さん
事務所係長の四級昇格では、この四月に紀勢から計画課に来た石田さん、岐阜県から道管一課に来た児玉さんへの発令を求める。三重には以前、大勢の四級係長がいたが、今では四名。しかし、三重の係長の職責等が軽くなった訳ではない。しっかりと発令せよ。

■三重（工務）上野さん
この四月に宮川へ来た中澤さ

監督官の野瀬さんへ五級発令も考え。監督官の五級発令も以



岐阜国 中倉さん

■三重の児玉さんは、三月まで岐阜国へ片道二時間半の自家用車で長時通勤。四月に係長横滑りで異動した三重では、通勤時間が微増。きちんと四級発令せよ。

「当局」原則的な回答が返ってくる

参加者の発言を受け当局からは大西調査官が「本日皆さんから、生の声を改めてお聴きした。業務執行への努力に感謝。今回の大型補正への対応として、健康管理をきちんとし、しっかり対応する。処遇改善には努力をしておいて、『これだ』とは思っていない。引き続き努力していく。昇格は級別定数の範囲内での総合判断。上位級定数の拡大は、上部機関へ状況を伝えるなど努力しているところ。専門職の実態は十分に承知。重要な課題と認識している。定年を間近に控えた方の長年の努力には敬意を持ち、処遇に配慮している。専門官の四級は、業務の困難度をみながら努力する。五〇歳代のハテラン層については、昇格を念ホストに限りがある中、適材適所等の「人事の



中技 深見さん

■中技（防災）川上さん
「処遇改善ホストの専門官で三級配置はその言に反する。人事評価制度では課長補佐クラスのはずだ。頭でっかしの年齢構成。相応の級別定数確保を求め。人事の結果を見るとき、中技の位置づけが低い。他の職場並みに昇任するのは、労務系の者だけだ。差別するな。

基本」に則り、状況に即した任用に努めたい」と回答しました。

昇格差別なくせ！ 処遇改善への願望を示せ

当局の回答を受け参加者は、「四級では、退職時にすい国家公務員の平均賃金に届かない」「退職まで残り二年で意欲も能力もある宇野さんの昇任希望を、この二〜三年で埋めていく。処遇改善の当局責務を果たしていない」と追及、当局は「回答は、底上げを言うなら専門職からの昇任」と重要に指摘。事務所係長四級と主任三級への当局の考えを質しました。当局は、「個々のご事情。ご事情はご言えない。引き続き努力する」と述べるにじみましました。

参加者はさらに、「退職時五級、六級への展望を示せ」と追及。当局は「重要な課題と認識」と述べた。重要課題として「はなく、毎年状況を見据えて対応」と回答。処遇改善への無計面な姿勢を露わにしました。「地域防災人事」での処遇改善が求められます。

